



Annual Report

2021

活動レポート

2021.4-2022.3

Vision

YMCAが実現したい世の中の姿

互いを認め合い、高め合う
「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

YMCA will work towards building communities in which people will respect and enhance one another to bring out their best. Rich and inspiring communities connected by people's "Positive Net".

Positive Net

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、
善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。

Value

YMCAがステークホルダーに提供を約束する価値

したい何かがみつき、誰かとつながる。
私ができる、かけがえのない場所。

The YMCA is a very special space where you can encounter something,
connect with someone and transform yourself.

みつかる

Encounter

つながる

Connect

よくなる

Transform

総主事メッセージ

Message from General Secretary of The Kumamoto YMCA



熊本YMCA総主事 **光永 尚生**

Hisao Mitsunaga
General Secretary, KUMAMOTO YMCA

未来に向けて種を蒔く働きと 世界を見つめて地域に生きる活動を

熊本YMCAは、1876年の熊本バンドにその源流があります。YMCA運動は1948年の法人設立よりはるか以前の時代に全国で最も早く始まりました。これまでに、「世界を見つめ、地域に生きる」様々な働きが、YMCA運動という会員活動から始まり、熊本のみならず、世界へとつながっていきました。これまでに、YMCAというプラットフォームを通して、社会に貢献し、社会を支えてくださっているすべての方に感謝とお礼を申し上げます。

私たちの熊本YMCAの働きとその目的は、1995年に策定された「熊本YMCAの使命」に記されています。『熊本YMCAは、熊本バンドの精神をうけつぎ、イエス・キリストによって示された愛と奉仕のわざに励み、青少年の精神・知性・身体の調和のとれた全人的成長を願い、すべての人々がひとつとなるための働きを行います』というこの前文には、私たちの願

いが集約されています。そして、その具体的な働きとして、「共に生きる社会」、「地球環境の保全」、「生涯学習の推進」、「ウェルネス活動」、「ボランティア活動」、「平和な世界」という行動の目標が表されています。

私たちの熊本YMCAは使命の実現を目標とし、小さな種を蒔き、水をやり、成長させていくプロセスに複数の法人で関わってまいります。2021年度に目指してきた、「私たちは見えないものに目を注ぎます」のゴールは、その種が、30倍、60倍、100倍になった時に見えてくるようです。そのために、これからも、私たちは歴史を洞察して学びつつ、YMCA運動の持つ世界観を感じながら、未来への希望の種を蒔くという働きを目指してまいります。世界中で困難にある人たちのことを覚え、ひとりも取り残さない平和な世界の到来を夢見つつ、働きを進めてまいります。

2022年度 熊本YMCA運営方針

Policy for 2022



イザヤ書 40章31節

Isaiah 40:31

主に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。

But those who hope in the Lord will renew their strength. They will soar on wings like eagles;
They will run and not grow weary, they will walk and not be faint.

I 熊本YMCAの使命実現を目指した 事業を推進します。

- SDGs推進部を発展させるために、ICR for SDGs (地域・国際) へと再改編します。
- 「歴史、世界観、マネジメント」の考え方を導入し、歴史=縦軸、YMCAの世界観=横軸、その2つを統合しグリップするマネジメントの力を強めて使命実現に寄与できる組織作りを進めます。略して「縦・横・算数」。
- 運動体と事業の統合が図れるように、会員の参画とコミュニティの形成のためにメンバーシップバイデザインを再構築します。
- 阿蘇YMCA70周年に向けた活動を推進し、新しい運動の出発点とします。

II 情報の見える化を浸透させるような情報発信 を活発に行い、YMCAの使命を伝えます。

- 統計や情報共有は週次報告、月次報告などに分類して行い、共有のスピード化を図ります。
- 会員の皆様に対するの情報開示を活発に行い、YMCAの使命の共有化を推進いたします。
- 熊本YMCAの使命実現のために各事業、施設運営のコンパクトでアメンバー的な経営を目指し、小さくても強みのある運営を進めます。

III リーダーシップ研修の充実を更に図り、 教育の質の向上を目指します。

- すべての研修の中で、YMCAのキリスト教理解、マネジメント力および指導力向上の為に時間を設け、指導者の育成を推進します。
- ユースリーダーやレイパーソンと、各スタッフの交わりができる研修の機会を創ります。
- YMCA内外の研修に派遣して、YMCA内外のリソースパーソンと交わりが生まれる機会を広く後世に伝えていきます。

IV ガバナンス、コンプライアンスを遵守しつつ、 YMCAマネジメントを更に強化します。

- 常議員会、委員会などの組織について特別委員会にて提案し、再編成していくプロセスを開始します。
- 常議員会と各法人理事会、各法人評議員会の関係性を適正化し運営していきます。
- 常議員会への報告方法・内容を改善し、運営が見える化した適切な報告、連絡、相談のシステムを構築します。

V ユースエンパワーメントを推進し、 担い手となる会員の育成と発掘を行います。

- リーダー会の働きをサポートし、YMCAユースチャレンジおよびユースアクションへの参画を促していきます。そのためにユース担当スタッフを配置し活性化を目指します。
- YMCAのユース世代スタッフの活性化を図るために、同期会、同世代会などを企画します。
- 新世代のニーズを発掘するためのユース世代の新しいスタッフによる企画開発会を発足します。

事業報告 Business Report

公益財団法人

ウェルネス事業

Wellness - Health Education



熊本YMCAでは「全国YMCAウォーターセーフティーキャンペーン」の一環で30年以上にわたり、子どもたちを対象に水難事故を未然に防ぐための「着衣泳体験」を行っています。また、6月20日(日)の「全国YMCAウォーターセーフティーデー」には、近隣小学校の水泳が苦手な児童を対象に特別水泳プログラムを行いました。

熊本YMCAは1967年に九州で初めて民間団体としてサッ



カー教室を開講。その歴史を受け継ぐフットボールクラブが、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果を上げたスポーツ団体等を文部科学大臣が表彰する「生涯スポーツ優良団体」に選出されました。

野外事業・野外活動

Outdoor Education

コロナ禍でも様々な工夫をしながら行った野外活動。8月1日(日)～5日(木)には初の種子島宇宙キャンプを開催しました。子どもたちに自然や環境と宇宙のつながりを知ってもらうことが目的。種子島宇宙センターではロケットや人工衛星の役割、惑星について多くの知識を得ました。宇宙飛行士の山崎直子さんやNASA関係者、宇宙旅行予定者とオンラインでつながり、「夢は叶う」などのメッセージが子どもたちに伝えられました。このキャンプをきっかけにYMCA宇宙ミーティングも発足。以後10回に渡り、オンラインミーティングが行われ、子どもたちの夢を育みました。

2022年2月27日(日)、YMCA阿蘇キャンプで「SDGsフェスティバル」を開催。7家族22人の親子が参加し、木や水のことを通してSDGsについて考えました。SDGsかるた大会や阿蘇の大自然の散策を通して木や森を大切にすることが地球への優しさにつながることを学びました。



インターナショナル事業

International Education



毎週土曜日、みなみセンターでグローバルキッズクラブを実施。年中～小学2年生の計22名の子どもたちが、終日英語を使いながら過ごしました。11月のテーマは「Cooking」。リフレスおおむたヘフィールドトリップにでかけ、思い思いのオリジナルピザを本格ピザ窯で焼きました。

「Pizza sauce, please!」や「Can I have some more corn?」、「I don't like tomatoes」などピザのトッピングを選びながら、覚えた食べ物の英語を復習したり、料理に必要な語彙を発話したりと、いつにも増して英語が飛び交いました。

2018年度から取り組んでいる小中学生を対象とした英検対策講座。2021年度はオンラインで開講しました。7月から5級講座を受講した6名、4級講座を受講した2名が10月9日の英語検定に挑戦。全員が合格を果たし喜びを分かち合いました。



事業報告 Business Report

公益財団法人

幼稚園・保育事業

Childcare

2022年2月22日(火)にみなみセンターのぶどうの木幼稚園バンビ(年長)クラスの子どもたちが食べられる花を使った花壇づくりを行いました。普段から食べられる花を身近に栽培することで、災害時に役立てようという狙いがあります。食べられる植物などについて説明を聞いた後、「ヨメナ」の苗をプランターに植え付け。子どもたちは植物についてたくさん学び、楽しい時間を過ごしました。

熊本五福幼稚園で開講した2歳児対象6カ月コースの体育幼児園は9月29日(水)に修了式を迎えました。園長から修了証を受け取る際は「ありがとう」という声も聞かれ、半年間の成長が見られる式となりました。



ぶどうの木幼稚園

指定管理事業

Designated Management

5拠点合同の野外活動クラブ「YYアウトドアクラブ」が発足。25名の子どもたちが阿蘇キャンプを拠点に活動し、キャンプスキルを身につけました。

御船町スポーツセンター 地域住民の幅広い年齢層に対し、交流と健康支援の場を提供することを目的に運営を行いました。7月～9月、0歳～2歳児と保護者を対象とした「親子すいえい」を実施。6組12名の親子が参加しました。水泳を通して、親子のスキンシップをとりながら、楽しく水慣れをすることができました。

益城町総合運動公園 熊本地震後の再建から2年目を迎えた総合体育館を中心に、様々なスポーツ大会や催しの会場として多くの利用がありました。4種公認の陸上競技場でのかけっこ教室、体育館でのソフトバレーボール大会など、主催事業を開催。11月にはYMCAインターナショナルチャリティーランも開催されました。

ユウパレス弁天 地域の皆さんを対象とした生涯学習講座として「ポジティブ講座」を前期、後期で開催。絵画教室、科学実験教室、工作教室、ウクレレ教室、シェイプアップコースなどを実施し、夏休みにはこども水泳教室、冬休みには体のつかいかた教室も実施しました。また、2022年1月16日(日)



益城町総合運動公園



リフレスおおむた「がまだす隊」

には、プールを利用した弁天アクアフェスタを初開催。地域の子どもから大人まで多くの皆さんが参加しました。

桃田運動公園 玉名市在住の子どもたちを対象に定期的に野外活動を実施しました。内容は長期休暇中のデイキャンプ、シリーズで実施した電車で行こうキャンプや登山キャンプなど。12月19日(日)に開催した電車でいこう!キャンプの合志編では、JRと熊本電鉄を利用。子どもたちは公共交通機関の利用方法を学びました。

リフレスおおむた 小学生から高齢者まで幅広い年齢層を対象にした活動を行いました。小学1・2年生が年6回の農業体験を行う「がまだす隊」は、12月12日(日)に大根収穫を行いました。中高年齢者に対しては、フレイル対策として、健康体操教室を開催。地域の健康づくりとコミュニティづくりに貢献しました。

事業報告 Business Report

学校法人

専門学校

Vocational School

3課程6学科で約300名の学生が学ぶ熊本YMCA学院本科。5月には2年ぶりのスポーツデイを開催しました。時間を分散させてのミニバレーやバスケットボール大会の他、近隣の散策などを通して学生同士の交流を深めました。

2022年1月から3月にかけてYMCA学院児童福祉教育科3年と建築科、ビジネス総合学科2年生がそれぞれ卒業発表を行いました。

創作劇、ダンス、合唱をすべて学生たちがつくり上げる児童福祉教育科の卒業発表会。1月29日(土)の千秋楽は山鹿市の八千代座で公演を行いました。会場への招待を控え、子どもたちとオンラインでつながりました。「離れていてもつながっている」「周りの人を感じ、認め合うことが大切」という意味を込めた本公演。自分と向き合い、仲間と向き合って無事に終えることができました。



3月4日(金)に開催した建築科の卒業発表会は様々な工夫を凝らしたインテリアデザイン、敷地選定から行う建築物設計、実在の街を想定しての都市計画の策定など多岐にわたりました。学生は緊張の中、事前に準備したスライドを用いながら精一杯プレゼンテーションすることができました。

ホテル業界の専門スキルや観光ビジネスを学ぶビジネス総合学科2年生が中心となって、3月21日(月・祝)に模擬挙式を開催。学生がホテルスタッフ、結婚式場スタッフになりきり、式の企画や運営すべてを担いました。留学生も多数いる本学科。新郎新婦役も学生が務め、今年の設定は日本で出会った台湾とウクライナ出身者の国際結婚としました。ロシアによるウクライナ侵攻を受け、挙式後には「私たちは世界の平和をのぞみます」という学生たちの思いを込めて、ウクライナの国旗の2色、青と黄色の風船約120個にひまわりの種とメッセージカードをつけてリリースしました。



医療秘書科の2年課程を修了した学生を対象に2009年4月に開設した診療情報管理士専攻科。2月13日に行われた日本病院会主催「診療情報管理士認定試験」を受験した6名の学生全員が合格しました。近年の全国合格率が50～60%代である中、3年連続で100%となり、喜びを分かち合いました。

健康スポーツ科は、地域のシニア世代の健康増進を目的とするマッスル体操を今年も継続。スポーツトレーナー、インストラクター等を目指す学生たちにとって、学んだことの実践の場として貴重な機会になっています。

留学生が日本での進学に向けて、日本語の上達を目指すとともに、日本で働くためのノウハウを学ぶグローバルコミュニケーション科。コロナ禍前から来日していた4名が1年間を過ごしました。2022年2月には、屋外活動として熊本市内を散策。県庁のルフィ像を見学し、マンガ好きな学生は興奮した様子でした。



事業報告 Business Report

学校法人



日本語学校

Japanese Language School

コロナ禍により日本に入国できない希望者も多数いる中で、オンラインも利用しての開講となりました。

5月21日(金)、日本語学校の留学生が雄大な阿蘇の地で田植えを体験しました。前年度、コロナにより困窮している留学生のために行われた支援緊急募金に対する恩返しの気持ちを含めて、阿蘇運営委員の五嶋義行さんの水田約10アールにヒノヒカリの苗を植えました。10月23日(土)には、たわわに実った稲の収穫にも立ち合いました。日本の伝統的な農業と食文化にふれる貴重な経験となりました。

通信制

Correspondence

仕事と学習を両立しながら資格取得を目指す社会人のための社会福祉学科と精神保健福祉学科。2021年度修了生の国家試験の合格率は、社会福祉士が41.3%(全国合格率31.1%)、精神保健福祉士が学科が89.5%(全国合格率65.6%)と全国平均を上回りました。コロナ禍の学習では、スクーリングをオンラインで行うことにより受講環境を整えています。また受験対策講座では横浜YMCAとも協力して学習することもできました。

幼稚園

Kindergarten

9月23日(木・祝)、野外活動リーダー会がYMCA水前寺幼稚園と熊本五福幼稚園の園児を対象とした「リフレッシュデイキャンプ」をYMCA阿蘇キャンプで開催。夏休み直後からまん延防止等重点措置による登園自粛、分散登園などにより、満足に外遊びができない環境が続き、それぞれ少なからずストレスを抱えていた園児たち。「リーダーたちと思いきり遊ぶ」をテーマに芝生広場(星の広場)での鬼ごっこや近くの水源地までの探検、レクリエーションなど時を忘れて精一杯遊びました。

また、両幼稚園は、株式会社ボーダレス・ジャパンの提供する電気サービス「ハチドリ電力」を導入。実質自然エネルギー100%を使用することにより、火力発電で排出されていたCO₂を削減し、地球温暖化の防止に貢献します。

放課後等デイサービス

After School Daycare

コロナ禍で日常生活に制限がある中で、たくさんのお友だちに会える放課後等デイサービス「YMCA自由なイルカたち」。2021年度は19名の子どもたちが日々たくさん笑顔と意欲的な姿を見せてくれました。夏祭り・クリスマス会など、季節の行事も縮小版ながら実施することができました。クリスマス会では、クラフトやお菓子の飾り付けに挑戦しました。



リフレッシュデイキャンプ

事業報告 Business Report

社会福祉法人

保育園

Nursery School

5月に尾ヶ石、永草、赤水の各保育園で実施した幼年消防クラブ結成式・園内大会。赤水保育園では5月21日(金)に年長児7名と年中児10名による幼年消防クラブ結成式を行いました。このクラブは正しい火の扱いを教え、消防の仕事に対する理解を深め、防火思想の普及を図るとともに、将来人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地を養成することを目的としています。子どもたちは防火の誓いを述べた後、機敏な動きで通常点検を行いました。そしてみんなで力を合わせてミニ腕用ポンプを操作し、見事放水に成功しました。

7月8日(木)にはユーパレス弁天で、4園合同のサバイバルスイミングを実施。年中児・年長児が水の安全について紙芝居で学び、その後、プールで着衣泳を体験しました。



就労支援センター

Job Assistance Center

中央センターの段山本館への移転に伴い、長年「カフェテリア ウェルビー」として親しまれてきた飲食店の営業を終了。利用者の皆さんは4月からモノづくりに取り組み、ポチ袋、マスク、アクリルたわし等を製作しました。清掃部門も建物の変更に伴い、清掃の方法や適切な道具の選定に工夫をしながら取り組んでいます。9月からは外部の事業所「合同会社あおぞら就労継続支援A型事業所にじいろワーク」として再出発。継続してモノづくりと本館の清掃に取り組んでいます。

有限会社

ユースコーポレーション

Youth Corporation

熊本YMCAの活動を支援することを目的に1986年3月1日に設立した有限会社ユースコーポレーション。主にYMCAで行うキャンプの企画・実施、保険のサポート、会員対象のユニフォーム販売を行っています。中央センターの移転を機に、ユースコーポレーションも本館近隣に移転。熊本YMCAの3法人が円滑に活動すべくサポート業務を中心にしながら地域に寄り添う会社として日々活動しています。

2021年度は「富士山の雄大な自然と神秘的溶岩洞窟を訪ねる4日間の旅」を企画。2022年3月31日(木)から4月3日(日)の日程で19名の参加者が自然散策や洞窟探検を楽しみました。



活動報告 Activity Report | Community Services

地域活動・ボランティア活動

災害支援・防災

Disaster Relief and Prevention

4月17日(土)、熊本YMCAをはじめ、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)などによる実行委員会の主催で「熊本災害支援フォーラム」を開催。YMCAの本館をメイン会場にオンライン参加を含めて約120名が被災者支援のあり方を考えました。YMCA職員の丸目陽子さんが、熊本地震や2020年7月豪雨での避難所運営について振り返ったオープニングトークに始まり、KVOAD代表理事の樋口務さんによるリードのもと、熊本地震・7月豪雨災害リレートークとして、災害支援に関わる6名の登壇者がそれぞれの活動について報告。その後、参加者はグループに分かれて意見交換を行いました。

また、2020年7月熊本豪雨支援として前年に引き続き、球磨村の現地ボランティアに参加。熊本YMCA会員や職員らが4月から7月にかけて畑の土砂移動や側溝の清掃などを行いました。



熊本災害支援フォーラム

インターナショナル・チャリティーラン

International Charity Run

YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会を目指し、全国で開催されています。第6回となった熊本大会は、リアルとオンラインのハイブリッドで開催。11月28日(日)に益城町総合運動公園で行われたオープニングランを皮切りに、12月5日(日)までの8日間、総合距離1,000kmを目指して参加者それぞれがラン、ウォーク、スイムなどにチャレンジし、距離のリモート申告を行いました。総積算距離は3,769.3kmと、目標を大きく上回る結果に。参加費等による益金は430,268円でした。

企業の社会貢献

Philanthropy

4月8日(木)、YMCAフィランソロピー協会主催の第26回新入社員ボランティア入門講座を開催しました。YMCA中央センターを会場とし、5企業・団体21名の参加がありました。参加者は、重りの入ったベストや自由に腕や足の関節を曲げ伸ばしできないサポーターを着て食事をする事で、高齢者の大変さを疑似体験。また、車いすで街中を移動しました。普段は気にならない段差も、車いすでは乗り越えることが困難で、介助者に助けられる場面が何度も見られました。2つの体験を通して、改めて相手の立場に立って物事を考えることを学ぶ機会となりました。



5月19日(水)に、株式会社オフィス慧の池田福美さんによるアンガーマネジメント講座、2022年2月9日(水)にはNPO法人くまもと未来ネットの井上智さんによる熊本の水資源に関するセミナーをそれぞれオンラインで開催しました。



活動報告 Activity Report | Community Services

地域活動・ボランティア活動

ユースエンパワーメント

Youth Empowerment

YMCAのキャンプ、スポーツスクール等で子どもたちと共に活動するユースボランティアリーダー。熊本YMCAリーダー会の新たな取り組みとして「プラットフォーム」がスタートしました。コロナ禍により全国的に不登校児童・生徒が増えたことを受け、彼らの居場所づくりを目指しました。全国YMCAユースチャレンジ2021の助成とクラウドファンディング等による支援を受け、2022年1月と2月の計6日にわたり実施。ながみねファミリーセンターを中心に、遊びや学習サポートを行ったほか、最終日にはYMCA阿蘇キャンプでグループ活動にもチャレンジしました。



熊本バンド記念行事

Kumamoto Band

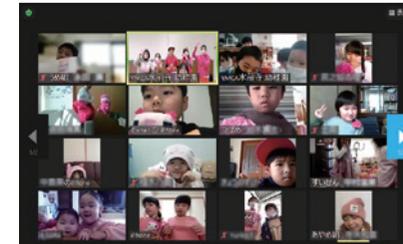
明治時代に基督教の教えを全国に広めようと誓い結成された「熊本バンド」の結盟146周年を記念し、1月29日(土)に記念講演会、30日(日)に早天祈祷会を開催しました。早天祈祷会では同志社大学神学部教授の越後屋朗さんより、「目を開く」と題した奨励の中で「神の愛、めぐみは見えないものではなく、実際にはモノやコト、そしてヒトを通してみることができます。熊本バンドは神の愛に気づき、神の教えを日本中に広めようとしてきました。私たち一人ひとりも神の愛に気づき、これからの歩みの中で熱い想いを抱いて、福音を広く述べ伝えていきたいものです」との思いが語られました。

ピンクシャツデー

Pink Shirt Day

2007年、カナダの男子学生がピンクのシャツを着ていじめに遭ったことを発端に世界各地に広まったいじめ反対運動「ピンクシャツデー」。YMCAも各拠点で取り組んでいます。

2022年2月21日(月)には、YMCA水前寺幼稚園が“オンラインでピンクシャツデー!”を開催。在園児と職員がピンクの物を身に着けてリモートでつながりました。いじめについて皆で考え、お互いを尊重することを約束しました。



新型コロナウイルス 子どもの貧困対策

Child Poverty Reduction Acts under the COVID-19 Crisis

金融機関で10年以上出し入れがない「休眠預金」を子どもたちの貧困対策などに活用する「熊本県新型コロナウイルス対応緊急支援協議会」を熊本YMCAと一般財団法人くまもと未来創造基金が共同で運営しました。2020～2021年度にコロナ禍の影響を受けているひとり親家庭や障がい者を支援する県内団体に計5000万円を助成。協議会は助成先の選定、資金提供を行うほか、研修会を開いて、各団体の活動を支援しました。

活動報告 Activity Report | Global Exchange and Cooperation

国際交流・国際協力

世界ユースサミットYLSS

Youth-Led Solution Summit The Future of Work Summit

6月7日(月)～9日(水)、国連・学界・青少年団体・民間企業の協力のもと、世界YMCA同盟がオンラインでYouth-Led Solution Summit The Future of Work Summit (YLSS)を開催。持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて若者(ユース)による社会的変革を推進することを目的に、2020年10月から2022年7月にわたって数回行われています。今回熊本YMCAからは2名のユースが参加。「世界YMCA同盟スタッフともつながることができ、議論を通じて楽しみながら学びました。今後のリーダー活動に活かしたいです」との感想が寄せられました。



タイ里親運動

Foster Care Movement in Thailand

熊本YMCAは1994年からタイのチェンライYMCAと協力し、タイ北部に暮らす山岳少数民族の子どもたちがよりよい教育を受けられるための支援活動に取り組んでいます。子どもたちは日本国内の里親の支援などを受けて「若竹寮」で共同生活を送りながら、街の学校に通っています。個人12名、3団体による里親支援に加えて、12月にはYahoo!ネット募金を通しての寄附の受付を開始。2022年4月6日時点で820人から176,193円の支援が寄せられています。

ミャンマーとつながる報告会

Report of Connections with Myanmar

2021年2月に国軍によるクーデターが発生したミャンマー。9月15日(水)、ミャンマーのYMCA関係者2名と日本をつなぐ「熊本YMCAミャンマーを想う会」をオンラインで開催しました。熊本YMCAは2011年からミャンマーのモガウンYMCAを通して、エイズ孤児を支援。スタディーツアーを実施するなどして交流を続け、クーデター発生以降は募金活動も行いました。今回は、東京・大阪・福岡等、全国からの参加もあり、モガウンYMCAの総主事のノジャさんや、2014年に来日して熊本で学び、その後エイズ孤児院の運営にも関わったヌータンサンさんと現在のミャンマー情勢や今後の展望について分かち合いの時を持ちました。



ウクライナ緊急支援

Emergency Support for Ukraine

ロシアによるウクライナ侵攻直後から爆撃地から逃れる人々のための宿泊・食料・衣料品・衛生用品の提供を開始し、子どもや若者の心理的・社会的支援を行っているウクライナYMCA。ウクライナ近隣諸国のYMCAでは連携を取り、24時間体制で避難民の受け入れ、生活支援が行われています。世界YMCA同盟及びヨーロッパYMCA同盟からの募金が呼びかけられていることを受け、熊本YMCAでも募金活動をスタート。2022年4月30日までに50万円以上の支援が寄せられました。



熊本YMCA本館オープン 学び・交流の拠点 新たに



2020年6月に着工した熊本YMCA本館が2021年5月に開館。本館は、建物の構造を強化。井戸、マンホールトイレ、かまどスツール、防災収納ベンチ、太陽光パネル、自家発電設備を備え、一次的な避難場所としての活用も想定しています。安全、安心な環境のもと、地域に愛されるYMCAを目指して新たな歩みを進めていきます。

■YMCA学院 専門学校

こども保育科・ホテル観光科・医療秘書科・健康スポーツ科・建築科・グローバルコミュニケーション科・
社会福祉学科通信制・精神保健福祉学科通信制

■YMCA学院 日本語学校

■放課後等デイサービス

■ランゲージスクール

■会員サービス・YMCAフィランソピー協会・本部事務局

熊本YMCA本館献堂式・オープンハウス

4月17日(土)、熊本YMCA本館の開館に先がけ、献堂式を執り行いました。第一部の記念礼拝では、カトリック宇部教会の片柳弘史さんが「平和の福音」と題して、オンラインで奨励。第二部開館記念式典では、会長の吉本貞一郎さんが「本館で多くの青少年が学び、熊本の地、そして世界で活躍する人材が育つことを願っています」と式辞を述べました。

4月22日(木)には、熊本市、株式会社南栄開発、学校法人熊本YMCA学園の三者で、熊本YMCA本館における「災害時の避難場所・施設利用に関する協定」を締結しました。熊本市域内で災害が発生し、熊本市から要請があった場合、施設の一部を指定緊急避難場所として開放するものです。調印式では熊本市長の大西一史さんから、災害時における行政と民間団体の連携の必要性と熊本YMCAに対する期待が語られました。

また、7月と8月、3月にオープン記念行事を開催。8月8日(日)には、留学生によるお国紹介を含んだやさしい日本語講座、キッズスポーツ教室、体力測定会を実施しました。やさしい日本語講座では、グループに分かれて留学生と交流。日本語を学ぶ外国人に分かりやすい「やさしい日本語」を意識しながら、会話を楽しみました。



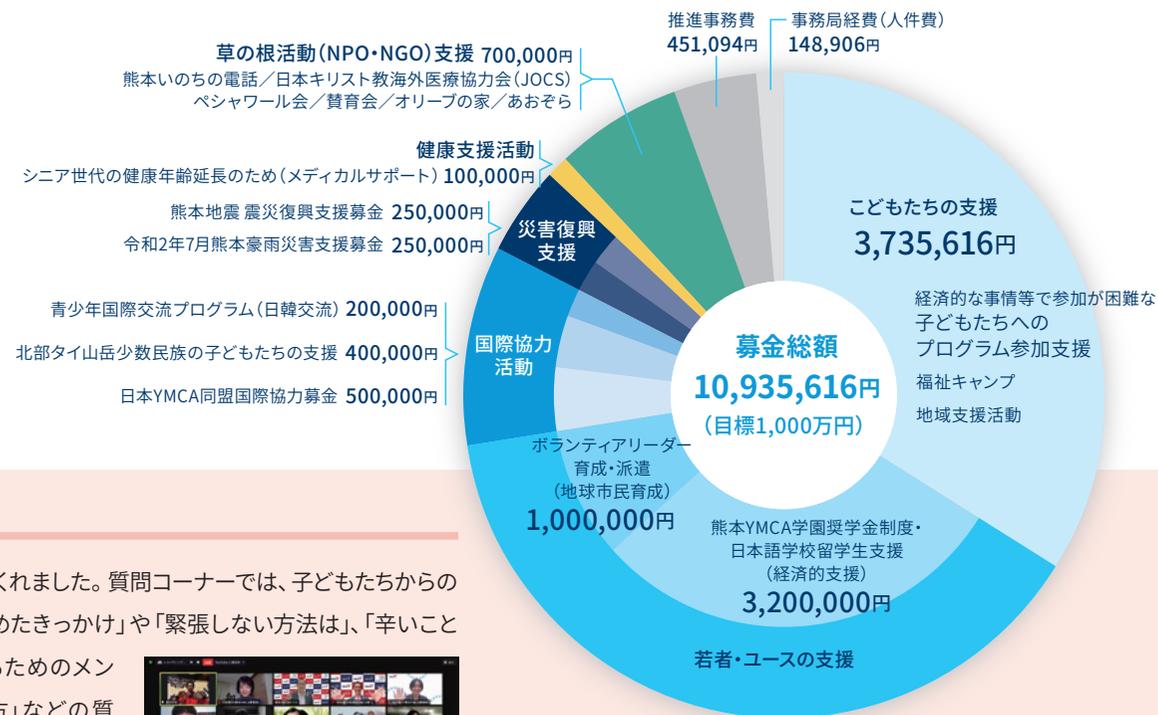
募金活動 Fundraising

ひとりがよくなると、 社会や世界はきっと変わる。

YMCA年末募金

Fund Development Campaign

「こども・若者・国際協力」を合言葉に2021年11月1日から2022年1月31日まで取り組んだ熊本YMCA年末募金は、目標1,000万円に対し、10,935,616円の募金が寄せられました。



富田宇宙さんにつながる交流会

熊本YMCA年末募金のキックオフプログラムとして、水泳教室の元在籍生で、2020東京パラリンピック競技大会競泳のメダリスト富田宇宙さんとオンラインでつながる交流会を10月29日(金)に開催しました。子どもから大人まで約60名が参加。富田さんは「感謝」「共感」をテーマに、次回のパリパラリンピックに向けて取り組むこと、「共生社会の実現」に寄与すること、幼少時代の夢である「宇宙旅行の実現」への

思いを話してくれました。質問コーナーでは、子どもたちからの「水泳をはじめたきっかけ」や「緊張しない方法は」、「辛いことを乗り越えるためのメンタルの在り方」などの質問に回答。夢を語る大切さや寄附について考える機会になりました。



YMCA祭

年末募金の取り組みの一環としてYMCA本館、みなみセンター、ながみねファミリーセンターの各拠点でYMCA祭を開催しました。熊本YMCA創立20周年を機会にはじまり、53回目を迎えた本館の前進祭。2021年は2週間にわたってチャリティーバザーを行ったほか、「食べて前進祭」と称して、近隣

地域からお弁当やお菓子を日替わりで取り寄せて販売しました。学生たちも協力して、予約販売したお弁当は204個にのぼりました。また、本館のプログラムをアピールする動画を配信。専門学校の各学科の学生たちが作った動画は個性あふれる内容でした。

街頭募金活動

11月27日(土)は阿蘇の5カ所、12月5日(日)には県内を中心に8カ所で街頭募金活動を実施。2021年5月にオープンしたYMCA本館の最寄り駅であるJR上熊本駅でも初めて行うなど、YMCAの活動を広く伝える機会となりました。



助成実績 Grant-in-aid Amount

参加費減免(通年プログラム)

事業部門	件数	助成額(円)
ウエルネス	21	818,490
野外教育	6	89,790
インターナショナル	5	110,760
YMCA学院	16	2,932,500
合計	48	3,951,540

参加費減免(春・夏・冬休み期間中プログラム)

事業部門	件数	助成額(円)
野外教育	4	46,110
合計	4	46,110

地球市民育成(ランゲージスクール学生受講料免除)

事業部門	件数	助成額(円)
インターナショナル	18	648,720
合計	18	648,720

地球市民育成 助成

プログラム	件数	助成額(円)
—	0	0
合計	0	0

※地球市民育成、メディカルサポートは、コロナ禍による利用減のため、残金は次年度の助成に充当します。

シニア世代の健康増進 メディカルサポート

事業部門	件数	助成額(円)
ウエルネス	1	17,600
合計	1	17,600



6月18日(金)に益城町津森小学校の児童を対象に行った「みんな泳げる25m運動」

Voice

参加者減免制度
利用者の声



野外活動クラブ在籍生

清田 千翔さん(年中取材当時)
麗子さん(お母様)

以前、英会話教室に通い、フィットネスに在籍していたこともあり、私自身YMCAには親しみがありました。近年災害が増えていきますので、自然に親しみ、強く生き抜く力を身につけてほしいと思い、YMCA野外活動クラブへの入会を決めました。苦手だった虫が触れるようになったり、洗髪を自分でできるようになったりと、娘の成長が見られて嬉しく思います。

YMCAに通えるのは参加費減免制度のおかげです。これからもYMCAでたくさんの経験をしてほしいと思っています。



YMCA学院 児童福祉教育科
2012年度卒業生
児童養護施設 愛隣園 保育士

藤田 光剛さん

YMCA学院では、授業やキャンプ、リーダー活動などを通して、知識や技術だけでなく、人としての在り方を学ぶことができました。ひとり親家庭ということもあり、裕福とは言えなかった我が家。YMCA学院の奨学金があったからこそ、3年間通い続けることができました。

私の夢を多くの方に応援していただいたことを忘れず、YMCAで学んだことを活かしながら、子どもたちと成長していきたいです。

YMCAについて About YMCA

YMCAとは

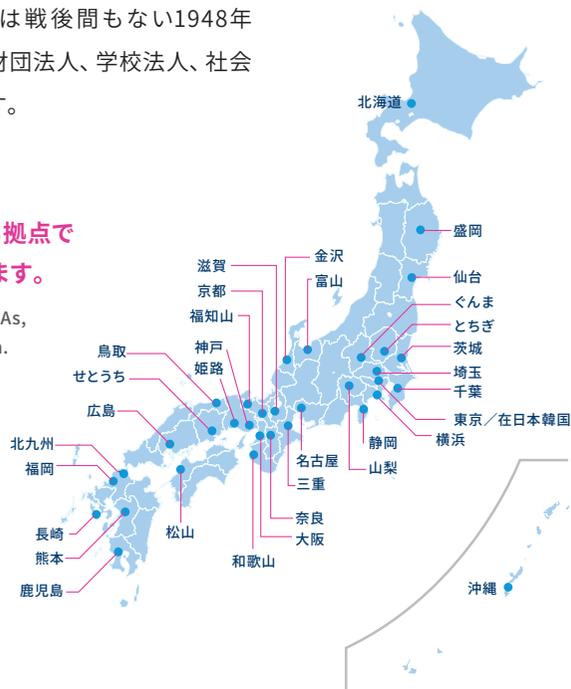
YMCAとは、Young Men's Christian Associationの略称で、キリスト教を基盤とする非営利公益団体です。世界120の国と地域で、およそ6500万人がYMCAの活動に関わり、日本国内では「みつかる。つながる。よくなっていく。」をスローガンに、地域や人々のニーズに合わせた多様なプログラムを提供しています。

YMCAは1844年、産業革命下のイギリス・ロンドンで、同世代の仲間たちの人格的成長や生活改善を願うジョージ・ウィリアムズ（1821～1905）ら12人の青年たちによって組織されました。

日本最初のYMCAは1880年（明治13年）、東京で創設。現在では沖縄から北海道まで、約14万人の会員とともに活動しています。熊本YMCAは戦後間もない1948年（昭和23年）に誕生し、公益財団法人、学校法人、社会福祉法人を軸に運営しています。

**日本のYMCAは、
全国35都市、200を超える拠点で
14万人が活動を行っています。**

About 140,000 Members, 35 YMCAs,
more than 200 Facilities in Japan.



YMCAの活動領域

子どもの成長に寄り添う

子育てと子育て

1

保育やアフタースクール、ウェルネスや語学教育といった体験や出会いの場と機会を通して子どもたちの成長に寄り添っています。



若者の力を信じる

ユースエンパワメント

2

幅広い分野の学校や学習の場、ボランティア活動を通して、若者の人間力を育み、その成長を力強く支援しています。



健やかな生活を支える

生活クオリティの向上

3

健康寿命の延伸や知的好奇心の追求を共にし、社会とつながる機会を提供することで人々のいきいきとした健やかな生活を支えます。



社会貢献の地域基盤となる

社会に貢献

4

災害支援やいじめ防止アクション、チャリティー活動など、日本と世界に広がるネットワークを活かして社会貢献の輪を広げています。



概況・統計 Statistics and Association Overview

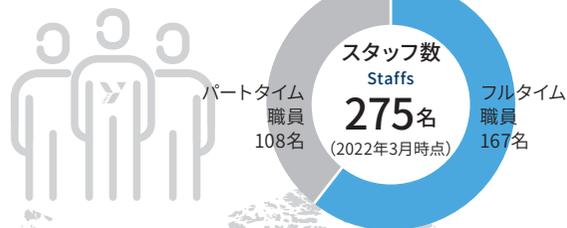
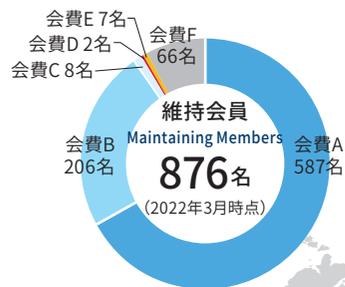
創立 Founding

熊本YMCA 74年 (1948-2022年)
 日本YMCA 142年 (1880-2022年)
 世界YMCA 178年 (1844-2022年)

拠点数 Centers 17 拠点 (2022年3月時点)

プログラム参加者 Members 5,525名 (2022年3月時点)

公益財団法人…………… 4,664名
 学校法人…………… 628名
 社会福祉法人…………… 233名



世界のYMCA 120の国と地域
 世界の会員数 約6,500万人

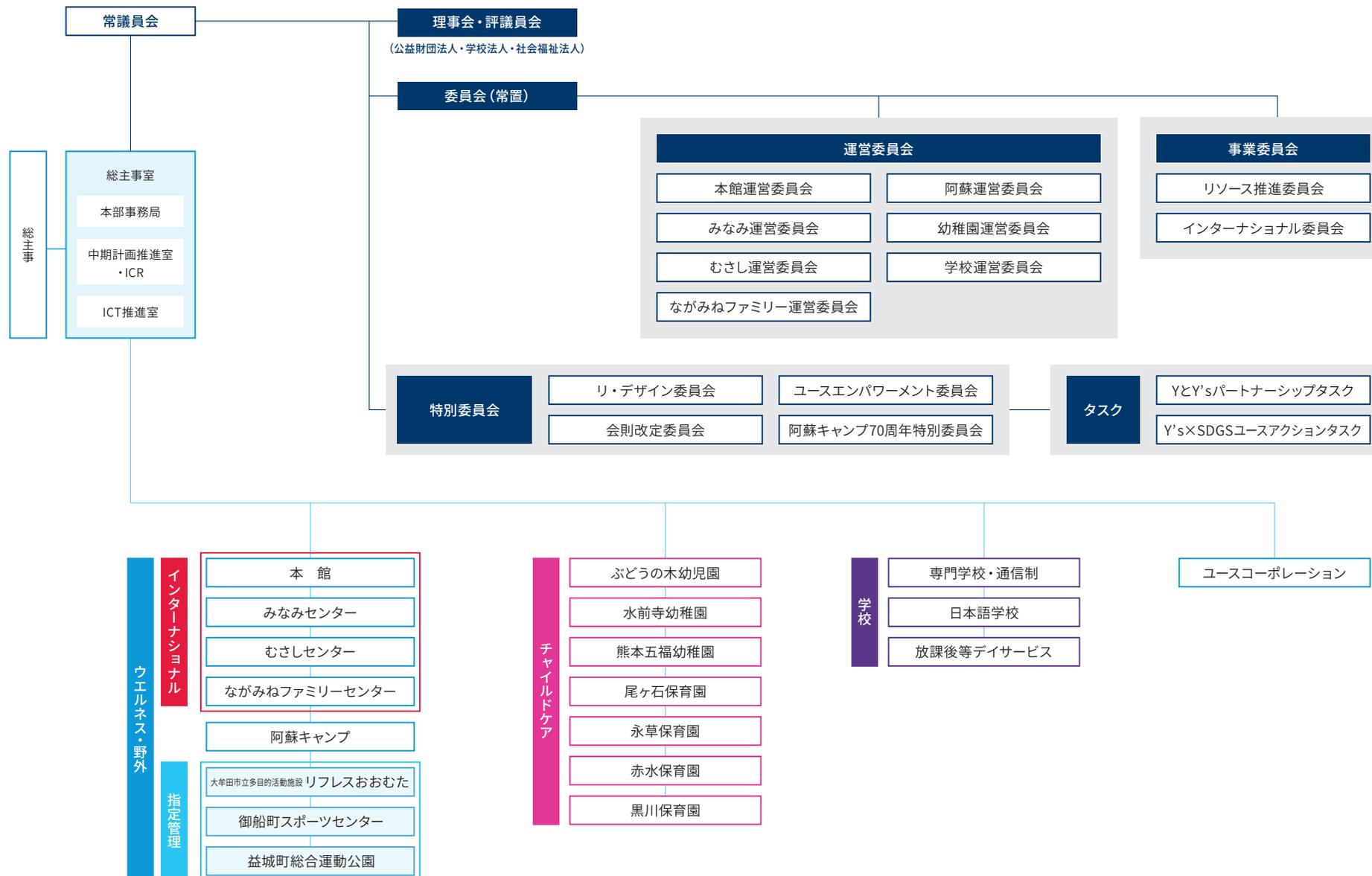
加盟 Affiliated
 日本YMCA同盟(東京)
 アジア・太平洋YMCA同盟(香港)
 世界YMCA同盟(ジュネーブ)

ワイズメンズクラブ Y's Men's Clubs 2022年3月時点

熊本ワイズメンズクラブ…………… 23名	阿蘇ワイズメンズクラブ…………… 18名
熊本ジェーンズワイズメンズクラブ… 34名	熊本にしワイズメンズクラブ…………… 14名
八代ワイズメンズクラブ…………… 8名	熊本ネクサスワイズメンズクラブ… 6名
熊本むさしワイズメンズクラブ…………… 16名	熊本スピリットワイズメンズクラブ… 9名
熊本みなみワイズメンズクラブ…………… 25名	熊本水前寺ワイズメンズクラブ…………… 14名
熊本ひがしワイズメンズクラブ…………… 14名	熊本五福ワイズメンズクラブ…………… 12名
宮崎ワイズメンズクラブ…………… 8名	

部門\拠点		本館	みなみ	ながみねファミリー	むさし	水前寺幼稚園	熊本五福幼稚園	社団法人	合計
ウエルネス	成人健康	—	518	136	—	—	—	—	654
	こども健康	17	1,313	1,148	603	—	—	—	3,081
	野外	55	—	—	—	—	—	—	55
インターナショナル	成人語学	111	10	—	9	—	—	—	130
	こどもえいご	71	255	146	131	—	—	—	603
専門学校(全日制)		303	—	—	—	—	—	—	303
専門学校(通信制)		107	—	—	—	—	—	—	107
アフタースクール等		15	7	37	—	—	—	—	59
発達障がい支援		—	11	11	—	—	—	—	22
放課後等デイサービス		22	—	—	—	—	—	—	22
幼稚園		—	—	—	—	107	74	—	181
幼児園		—	75	—	—	—	—	—	75
保育園		—	—	—	—	—	—	233	233
合計		701	2,189	1,478	743	107	74	233	5,525

2022年度組織 Organizational Structure



熊本YMCA役員・委員報告 Board and Committee Members

2022年3月時点

◎委員長 ○副委員長 ◇担当職員

公益財団法人 熊本YMCA

理事長 光永 尚生
 理事 大久保和生 田上 正 中村賢次郎
 西 章男 守田 富男 吉本貞一郎
 監事 藤田 香織 森 博之
 評議員 麻生 尚哉 岩永 福子 上村眞智子 長澤 牧人 林田 博文
 本田 節子 三上 充 森嶋 道 両角 彰則 吉岡 久美

学校法人 熊本YMCA学園

理事長 光永 尚生
 理事 井上 和美 前田香代子 吉岡 久美 吉村 千恵 吉本貞一郎
 監事 守田 富男 吉松 裕藏
 評議員 上村 文美 加藤 泰文 熊本 哲朗 佐藤 通彦 林田 博文
 福山 裕敏 前田香代子 宮本 昌宣 吉岡 久美 吉村 千恵
 吉本貞一郎

社会福祉法人 熊本YMCA福祉会

理事長 光永 尚生
 理事 岡山富士男 久保 誠治 高橋 壘
 藤崎 三郎 二子石真弓 宮本 誠一
 監事 桑本 ゆき 藤本猪智郎
 評議員 木村 仁美 五嶋 義行 坂梨 鐵男 西本 貴志
 畑本 芳輝 松村由紀子 森 あい 山口 貴生
 脇 澄夫

熊本YMCA常議員

麻生 尚哉 岩永 福子 上村眞智子 佐藤 通彦 田上 正 長澤 牧人
 西 章男 林田 博文 藤田 香織 本田 節子 前田香代子 三上 充
 森 博之 森嶋 道 守田 富男 両角 彰則 吉岡 久美 吉松 裕藏
 吉村 千恵 吉本貞一郎 光永 尚生

本館運営委員会 ◎林田 博文 ○生駒 春美 岡田 茂美 小山 徹 木山 彫子 金澤 知徳
 中尾 桂子 西 章男 福田 稔 北條 将人 村田紀美子 和田 修一
 (守田 富男) ◇熊本四季子

みなみ運営委員会 ◎森 博之 ○岩永 福子 ○麻生 尚哉 岩瀬 英次 岩本 守弘 内村 忠生
 後藤 慶次 杉野 茂人 時任幸四郎 中村 邦雄 中村 陽志 藤元 俊輔
 松永 圭史 村上 博 米倉 容子 ◇丸目 陽子

ながみね運営委員会 ◎吉松 裕藏 ○田上 裕章 ○横田 博 石橋 綾 小川祐一郎 柏原 芳則
 門永 充弘 菅 正康 竹本 雄一 馬場 淑之 平山 俊生 本堀 秀一
 ◇木村 成寿

むさし運営委員会 ◎両角 彰則 入佐 孝三 桑原純一郎 最相 博子 高橋 良明 田北康一郎
 田上 正 林田 秀平 斐 東烈 山部 裕輝 米村 謙一 来海 恵子
 ◇辻 健太郎

阿蘇運営委員会 ◎吉村 千恵 ○篠崎 泰子 内村 優 梅井 俊夫 五嶋 義行 竹原 憲朗
 藤本猪智郎 藤本 義隆 松岡 省吾 武藤 興紀 ◇堤 雄一郎 ◇岡山富士男
 ◇本田奈緒子

幼稚園運営委員会 ◎本田 節子 ○岩本 悟 伊藤 七海 岩本 芳久 上野美恵子 白木 尚登
 長澤 牧人 東 菜保子 本田 光夫 三上 充 水元 裕二 山下 和美
 ◇福山 裕敏 ◇井上 和美

学校運営委員会 ◎吉岡 久美 ○上村眞智子 荒木由起子 有吉 亮 岩切 和子 江口 清一
 亀浦 正行 俵 哲 広渡 純子 守田 義彦 ◇中村賢次郎 ◇加藤 泰文

リソース推進委員会 ◎佐藤 通彦 秋根 年子 今村 秀夫 大崎 隆義 田中 俊夫 藤田 香織
 森嶋 道 山田 芳之 ◇辻 健太郎

インターナショナル委員会 ◎前田香代子 木下慎太郎 坂本 美穂 立野 泰博 藤井 資子 棟方 信彦
 (吉本貞一郎) ◇辻 健太郎 ◇尾道 一幸



みつかる。つながる。よくなっていく。